

INVESTORS' GUIDE 45th period

第45期 株主通信 2024年4月1日 > 2025年3月31日





人を育て、ITにさらなる価値を—— 頼りにされる ITパートナーへ。

《Q1》 不透明な景況感が続いています。
システムリサーチのこの1年の業績はいかがでしたか。

国際紛争の長期化や円安の影響もあって諸物価が高騰しており、先行き不透明な状況が続いています。そうした厳しい状況下にも関わらず、当社グループが属する情報サービス業界は、企業様の旺盛なIT投資意欲に支えられ、拡大を続けています。

当社グループは、お陰様で売上・利益とも過去最高を記録し、増収増益を維持しています。

《Q2》 DXやAIが話題となっています。
コアサービスであるSIサービスや他社アライアンスについての動きはいかがでしたか？

デジタル技術で企業の業務改革を進めるDXの動きが活発になっています。全体としては、引き続き、レガシーシステムの刷新やクラウド化に伴う開発、最新のデジタル技術を活用したソリューション適用などの動きが多く見られました。

AI^{*1}にフォーカスすれば、2024年12月に生成AIを活用した高度な文書検索支援サービス「デジクエリ」をリリースし、名古屋大学医学部附属病院様との共同研究を正式発表しています。医療機器の説明書に関する文書検索を「デジクエリ」で容易に検索できるよう効率化し、医療従事者の業務負担軽減やより質の高い医療の提供を目指します。この取り組みは、IBM社(米国本社)からの評価を受け、2025 IBM Partner Plus Awards^{*2}「AI for Business in Japan部門」を受賞いたしました。また、AIの画像認識を活用し、ジェイアイ傷害火災保険株式会社様の保険金自動支払いサービスの開発支援にも携わりました。旅行用のスーツケースの破損状況をAIで自動判定できるようにしたことで人的コスト削減にも貢献しました。

他社とのアライアンスでは、RPA(UiPath)のイベントでスポンサー講演に登壇したことがきっかけとなり官公庁の大型案件の獲得に繋がりました。AI-OCR「DX Suite」も戦略的アライアンスとしてAI inside 株式会社のConsulting Partnerに認定されたことにより認知が広がり、複数の大型案件の引き合いに繋がっています。

《Q3》 この数年、プロジェクトの赤字化を防ぐ、リスク管理やPM(プロジェクトマネージャー)育成にも力を注いできました。その成果についてお聞かせください。

プロジェクト運営において重要なポイントは2つあります。1つ目は、リスクを早い段階で発見しその芽を摘むこと、2つ目は、プロジェクトを主導するPMの育成です。

当期もPRM(プロジェクト・リスク・マネジメント)を推進し、一定規模以上の「プロジェクト計画(見積もり作成)」の確認、「プロジェクト進行(品質・コスト・納期の進捗管理)」の確認を実施しました。その結果、コストオーバーとなるプロジェクトの発生はなく、収益に貢献しています。

PM育成については、教育研修の後、実際のプロジェクトをアサインし実践的なマネジメント業務を行った結果、これまでに8名がPMとしての成果が認められ、3年間のPM育成カリキュラムを終え、修了証書を受け取りました。

《Q4》 創作品モール「ある」をはじめとするプロダクト&サービスではどのような進展が見られたでしょうか。

2022年2月にグランドオープンした創作品モール「ある」は、3周年を迎えました。XやInstagramなどのフォロワー数も延べ8万人となりました。2024年9月にはスマホアプリをリリースし、ダウンロード数も3,000を超えています。

また「ある」の参加盟店舗が使用する当社のネットショップ作成・運用クラウドサービス「イージーマイショップ」は、利用店舗数が堅調に推移し、流通総額は110億を超え、前期比112%を達成しました。

中小企業向けパッケージソフトの開発・販売においては、クラウドシフトが中小企業にも広がりはじめており、CRM(顧客管理)「WArm+」は、前期比138%の伸びとなり好調です。

《Q5》 「Next Vision 50th」に向けた中期3カ年経営計画の手ごたえについてもお聞かせください。

当社は2031年に創業50周年を迎えます。そのため中長期目標「Next Vision 50th」の達成に向け、その足掛かりとして3カ年ごとの中期経営計画を掲げ、毎年10%以上の売上高・営業利益の成長とともに、2年後には従業員数2,000人体制を目指しています。

情報サービス業界は、人材がカギとされており、優秀な人材を確保し、しっかり教育を行って共に成長しなければ事業の未来は描けません。当社はこの春、171名の新卒者を採用しました。一人ひとりを大切に育てていくことが必要不可欠です。

当社はこれまでも社員の教育研修に力を注ぎ、資格取得などを支援してきましたが、本年から社員の学びと成長を支援するLearning Portal

SiteilCity」をスタートし、全社員が自らの意思で常に新しい知識や技術の習得に挑み、企業人としても個人としても成長できる場を設けました。

また、組織変更にも着手しました。新たな部門を新設し、EC支援サービスを提供するECプロダクトGは「eコマース部」として部門化しました。東京地区・大阪地区は支店を支社に格上げしています。さらに組織拡大に伴い、管理部門を統括する「管理本部」を新設して、バックオフィスの管理体制も強化しました。

《Q6》 名古屋証券取引所プレミア市場に重複上場しました。あらためて株主様に向けたメッセージをお願いします。

当社は東京証券取引所プライム市場に上場していますが、本年3月に名古屋証券取引所(名証)プレミア市場に重複上場しました。当社はSIサービスを主力とするBtoB向けビジネスで、コンシューマ向けのサービスではないため、一般的には認知されにくい業態です。名証は、個人投資家向けのIR活動を活発に行われているため、個人投資家の皆様との接点を増やし、本社を置く中部地区をはじめ、様々な地域での知名度向上を図り、株主・投資家の皆様の当社への理解を深めていただけるよう努力を重ねてまいります。

当社は継続的な安定配当を基本方針としていますが、株主還元の一層の充実を図るべく、当期は配当性向40%を目指し、1株当たりの配当金額を20円増額して60円としました。

2025年3月に発表された「みんかぶアワード2024^{*3}」では、東証プライムの上場会社数1,641社(2024年11月末時点)のうちの40社に選定いただきました。

引き続き、株主の皆様におかれましては、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

^{*1}…AIはIBMの製品を使用しています。
^{*2}…IBM Partner Plus Awardsは、お客様のデジタル変革を積極的に推進するなど、業界に大きな貢献をもたらしたIBMパートナーを表彰するものです。
^{*3}…国内最大級の金融・資産形成情報メディア「みんかぶアワード」が年に一度、4,000以上ある銘柄から規模や業種を問わず、今後が特に期待されるものを選定・表彰する制度です。



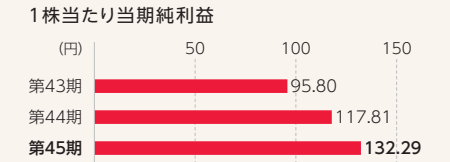
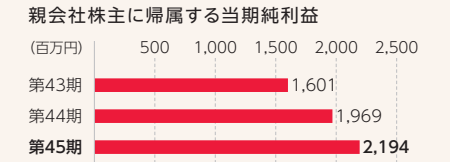
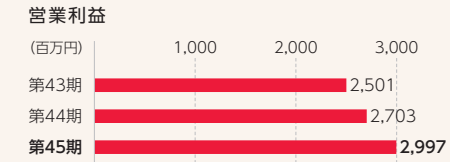
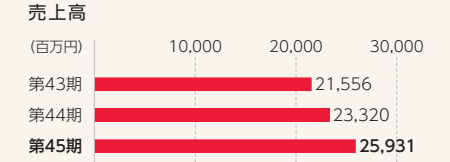
ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。当社グループは、この1年もほぼ計画どおりに業績を伸ばすことができました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。ここに第45期(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の取り組みをご報告させていただきます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

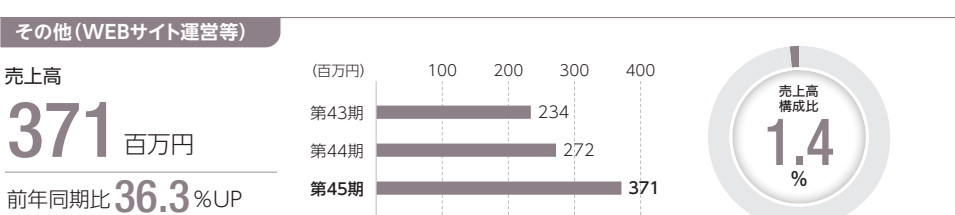
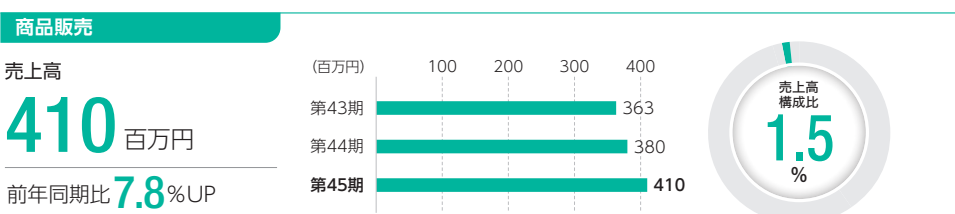
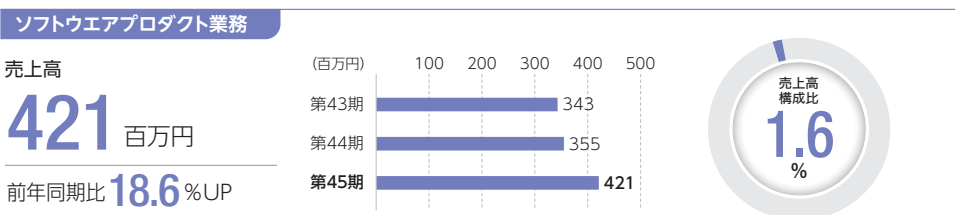
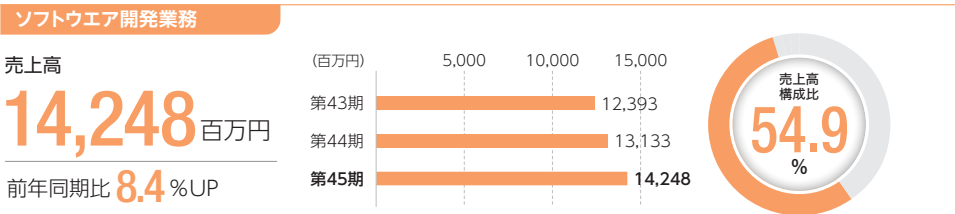
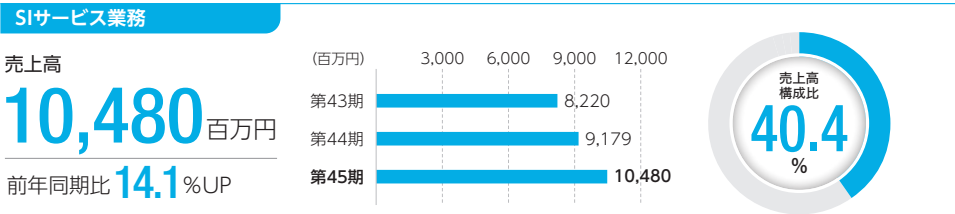
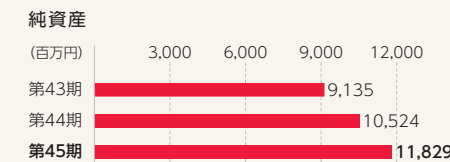
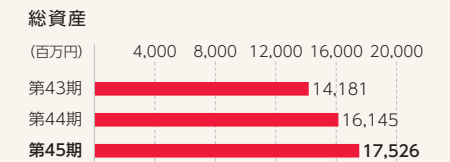
2025年6月

代表取締役社長 平山 宏

FINANCIAL HIGHLIGHTS

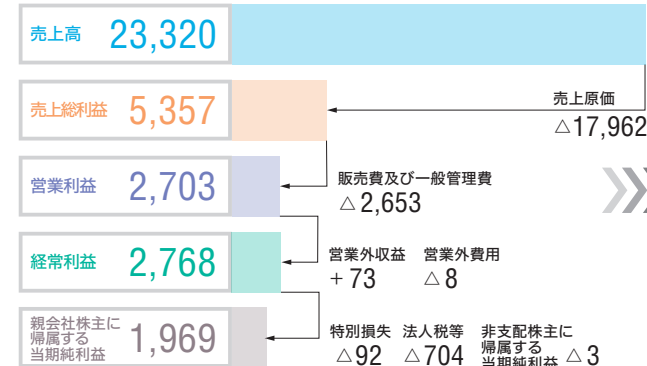


(注)当社は、2024年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行いました。前々連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

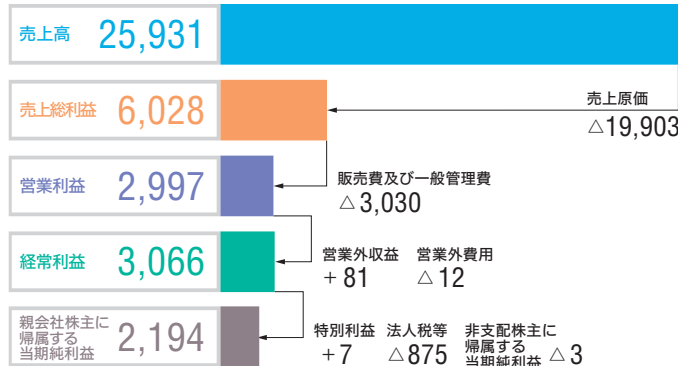


連結損益計算書の概要 (単位：百万円)

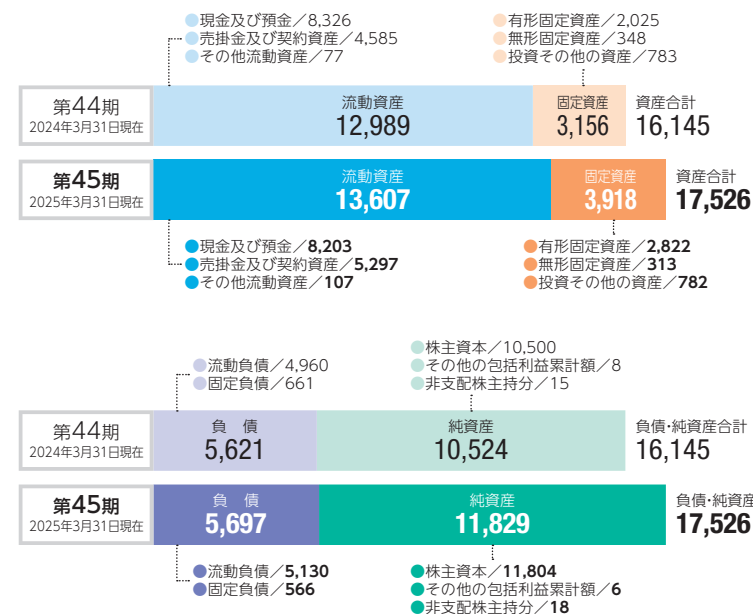
第44期 2023年4月1日から2024年3月31日まで



第45期 2024年4月1日から2025年3月31日まで

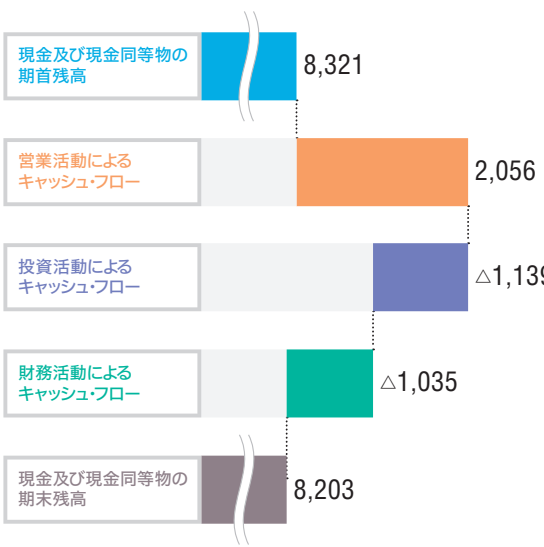


連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)

第45期 2024年4月1日から2025年3月31日まで



“学びを日常の風景に” 社員の学びと成長をラーニングポータルサイト 「SilCity」で支援

「SilCity」とは

「Sil」は「知る」に掛けた言葉であり、また、Satisfy（楽しいと感じる、満足を得る）、Instruct（導く、案内する）、Learning（学ぶ）の頭文字から取った造語でもあります。トップページは、「集まる」「発展していく」「楽しそう」をコンセプトに、街をモチーフとしたデザインで、建物はクレイアート（粘土細工）で表現しています。桜、新緑、紅葉、雪景色など四季折々の季節に合わせた色合いに変えられる仕様になっています。

この4月、ラーニングポータルサイト「SilCity」がスタートしました。どのような目的で生まれたサイトでしょうか。

人材育成の仕組みや研修カリキュラムに関する情報を社内のポータルサイトに掲載するものの、掲載箇所が点在しており、社員が見たい情報にすぐに辿りつけない、取り組みも中々浸透していかないといった課題がありました。また、並行して中長期目標「Next Vision 50th(以下NV50)」の取り組みの1つである「新たな価値を創出する技術力」においても、社内のデジタル人材育成の進め方の検討を重ねており、それならば技術を習得するだけでなく人材育成の底上げが図れるよう、教育系の様々なコンテンツを1箇所にまとめたポータルサイトを作ってみてはどうかという話になりました。

NV50では、会社と社員が共に成長する仕組みを構築する「従業員

エンゲージメントの進化」の取り組みも行っているため、この活動と協働し、会社が目指す方向性と社員のやりたいことを効率的にマッチングしようと考え、2023年11月に練った構想をもとに、ワーキングチームを立ち上げて2024年4月にプロジェクトを開始しました。

社員の多様なニーズを満たすには、
多彩なコンテンツづくりが欠かせません。

4月のスタート時までに10個のコンテンツをつくりました。

①「ITスキル・DX研究所」は、ITトレンドの紹介やDX資格情報を案内する場です。②「人材育成カンパニー」は、当社の人材育成の考え方を分かりやすく説明しています。③「研修・教育道場」は、オンデマンド研修やデジタル人材育成へのロードマップを用い自発的に学習できる場を提供します。④「プロジェクト図書館」は、PMを目指す方々が参考にできるPM育成カリキュラムを掲載しています。また、全社のプロジェクトをプロジェクトブックという形式で紹介する機能も追加しています。(6月時点では一部の部門のみ公開)。

⑤「コミュニティ広場」は、社内サークル活動(ゴルフ・野球・テニス)やSilCity運営スタッフのブログなど会社の活動や役員・社員の何気ない日常の1コマを発信する場。社長自らも日々の活動を発信しています。

⑥「イベントカレンダー」は、社内イベントを告知します。⑦「事業部別教育」は、事業部ごとの人材育成方針や計画、進捗状況を掲載します。⑧「インフォメーション」は、直近の展示会などのイベントやセミナーの情報を発信します。⑨「KPI(評価指標)」では、資格・教育状況に関わる実績などをグラフで表示します。⑩「congratulations」は各種資格の取得者をお祝いするコーナー。誰かが資格を取ったときに、ハートマーク「いいね」を押してみんなでお祝いできるよう遊び心を取り入れました。



▲ SilCity TOPページ(香)



◀ KPI

◀ SilCity 4コマ漫画

コンテンツでこだわった点や工夫した点は
どんなところですか？

トップページの「人材育成カンパニー」に入ると当社の人材育成の考え方やキャリアパスの考え方を4コマ漫画で紹介しています。当社は未経験入社の方も多いため、文字ばかりの説明ではイメージしづらいと考え、分かりやすくなるよう漫画仕立てにしました。社員にも好評です。

事業部別教育は、各部門の人材育成担当が部門の教育方針をもとに教育プランを作成し、自部門のページを作成しています。これにより、社員が自部門の教育方針ヘスミーズにアクセスでき、また他部門との比較も容易にできるようになりました。これまでも社内のポータルサイトに人材育成会議の議事録を掲示していましたが、人材育成担当以外の社員が積極的に見に行くことは少なかったのではないかと思います。また、技術部門だけでなく、経営企画や経理などの管理本部の教育についても掲載しています。教育関連のポータルサイトを持っている会社は他にもありますが、全組織の教育状況を網羅しているケースは少ないと考えています。

当社は年間80時間の研修時間を推奨しています。KPIとして部門別の平均学習時間や資格保有数などを見て刺激を受けることで、お互いにスキル向上に向けて切磋琢磨してもらえると嬉しいです。

社員が学び続け、それぞれのキャリアアップに
つながるといいですね。

現在は社員が訪れたいくなるような、ゲーミフィケーション(ゲームの仕組みや要素を取り入れ、楽しみながら自然に行動を促す手法)の導入に向けて準備を進めています。各コンテンツやページにポイント

付与の仕掛けを設定し、ポイントがたまることでランクが上がったり、バッジを取得できるようにするなど社員のモチベーション向上に繋がるような施策を考えています。

4月から本格運用がスタートしたばかりのため、まずは啓蒙活動をしっかり行い、「教育に関することと言えばSilCity」と社員に積極的に活用してもらえるよう定着を図ります。そのためにはコンテンツは陳腐化しないよう定期的に更新し、最新のトレンドやセミナー情報など様々な情報を発信していきます。また、追加で掲載したいコンテンツなどの要望も届いているため、そういった要望にも応えていけるよう活動をさらに活発化させていきたいです。

会社の発展のためには社員一人ひとりの成長が必要不可欠です。社員の強みを活かし、会社と共に成長する。

全社員の技術力の底上げを目指しこれからもSilCityの活気ある街づくりに挑んでいきます。

取締役
産業システム事業部
事業部長

梅本 美恵





学べる街「SilCity」をもっと知る

特集で紹介しきれなかったトップページの四季のイメージおよび開発秘話やコンテンツをご紹介します。

四季で街並みの色づきが変わり、季節感を感じられます。春^{*}は桜、冬は雪が舞います。

※春は、特集ページ(P.6)をご覧ください。

SilCityのデザインは、特集インタビューに登場した社員(清水)の手書きのイメージが元となっています。

クリエイターは細部までこだわりました。
左の建物は、当社の本社です。

右上の「ハート」を押して資格合格者を祝福します。
右下の創作モール「ある」のキャラクターの「あるうさ」もクラッカーで祝福します。

インナーブランディングの一環として カルチャーブックを制作

当社のブランドストーリーを明文化し、社員全員で価値観を共有

インナーブランディングの一環として、当社の価値観をまとめたカルチャーブックを制作しました。

中長期目標「Next Vision 50th」の取り組み「人的資本とバックオフィスの強化」の施策の1つとして行っています。

今後のさらなる事業拡大・人員拡大に向けては、社員一人ひとりが経営理念や経営ビジョンを認識し、理解することが不可欠です。そこで、当社のブランドストーリーを明文化し、全社員で価値観を共有し、会社が向かう方向性を一致させることを目的として当ブックを制作しました。



カルチャーブックの概要

カルチャーブックは、過去・現在・未来の3部構成となっており、全20ページです。当社がこれまで大切にしてきたことや志してきたこと、経営ビジョンとして掲げる価値観や指針、未来への展望が込められています。デザイン面では、写真を大きく配置することで、動画のように視覚的にストーリーを追える構成としました。サイズは、社員がいつでも持ち運びやすいようにB6サイズを採用し、紙質にもこだわり、柔らかな風合いのものを選定しています。さらに、環境にも配慮し、インクは植物油インキを使用し、FSC認証紙を採用しています。

社員一人ひとりがカルチャーブックの内容を自分ごととして捉え、日々の業務の中で実践できるよう、その価値観を社内全体に浸透させ、企業文化として根付かせるべく取り組んでまいります。



会社概要

(2025年3月31日現在)

会社名	株式会社システムリサーチ
英訳名	SYSTEM RESEARCH CO., LTD.
本社所在地	名古屋市中区岩塚本通二丁目12番
会社設立	1981年(昭和56年)3月
資本金	5億5,015万円
上場証券取引所	東京証券取引所(プライム市場) 名古屋証券取引所(プレミアム)
従業員数	連結1,484名 単体1,461名
主な事業内容	① SIサービス業務 ② ソフトウェア開発業務 ③ ソフトウェアプロダクト業務 ④ 商品販売 ⑤ その他(WEBサイト運営等)

役員

(2025年6月25日現在)

代表取締役社長	平山 宏
取締役	梅本 美恵
取締役	渡邊 貴文
取締役	五十棲 一智
取締役	太田 吉信
取締役	中川 智
取締役 常勤監査等委員	鳥居 文孝
取締役 監査等委員(社外)	安井 悟
取締役 監査等委員(社外)	越川 靖之
取締役 監査等委員(社外)	鈴木 仁
取締役 監査等委員(社外)	鈴木 春美

ホームページのご案内

ホームページでは、当社の企業活動全般の情報をご用意しております。株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。

【ホームページアドレス】

<https://www.sr-net.co.jp/>



トップページ



IRサイト トップページ



主要な事業所

本社	名古屋市中央区
第1開発センター	名古屋市中央区
情報センター	名古屋市中央区
開発センター	名古屋市中央区
東京支社	東京都新宿区
大阪支社	大阪市西区



本社



東京支社



大阪支社



第1開発センター

株式状況

(2025年3月31日現在)

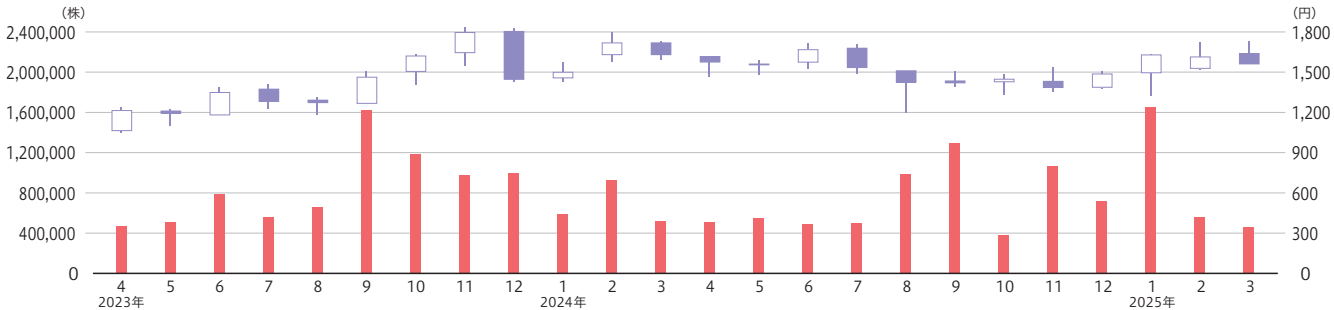
発行可能株式総数	54,400,000株
発行済株式の総数	16,720,000株
株主数	5,367名
単元株式数	100株

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
山田 敏行	2,385,000	14.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,608,600	9.71
システムリサーチ従業員持株会	986,928	5.95
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM02 505002	637,200	3.84
伊藤 範久	611,700	3.69
大澤 日出巳	360,000	2.17
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	315,700	1.90
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	298,200	1.80
伊藤 まち子	266,000	1.60
布目 秀樹	263,300	1.58

(注) 持株比率は、自己株式154,262株を控除して計算しております。

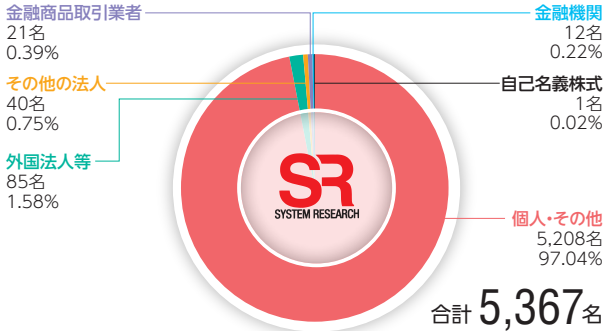
株価および出来高の推移



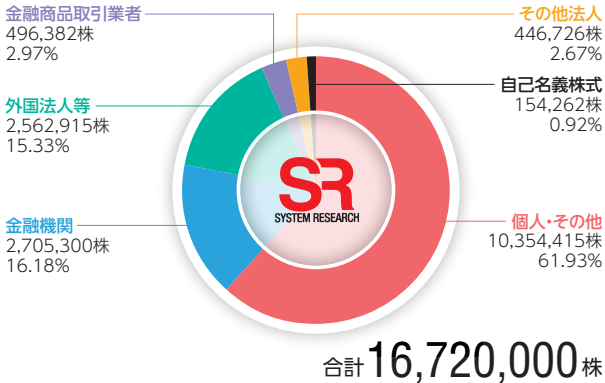
(注) 当社は、2024年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。分割前の株価は、株価の連続性を維持するため分割後の値に調整しております。

株式分布状況

株主数構成比



株式数構成比



株主メモ

決 算 期	毎年3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
基 準 日	毎年3月31日
株 主 名 簿 管 理 人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
単 元 株 式 数	100株
公 告 方 法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により 電子公告ができない場合、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載アドレス (https://www.sr-net.co.jp/ir/announce/)
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所（プライム市場） 名古屋証券取引所（プレミア市場）
証 券 コ ー ド	3771

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主優待のご案内

株 主 優 待	毎年9月末日現在の当社株主名簿に記載または記録された100株以上保有の株主様を対象にクオカード1,000円分を贈呈いたします。	
---------	---	---



株式会社 システムリサーチ

